

少し年は取っているが、 80代前後の元気な ガイドたち

■ 近代アートの島 ■



珠のような多島美で知られ、瀬戸内国際芸術祭は、ベネッセホールディングスの福武会長の言葉を借りれば、「『在るものを生かし、無いものを創る』価値転換を図るべきだ」という構想によるものです。今後100年間継続して開催する予定です。

今年は今現代アートの祭典である「瀬戸内国際芸術祭2010」

が7月19日から105日間、直島をはじめ豊島、男木島、女木島、小豆島、大島、犬島の7島と高松を舞台に展開されます。それぞれの島に歴史・文化がありますが、いずれも過疎化と高齢化の進む離島です。備瀬戸に点在する真



直島町観光ボランティアガイドの会
会長 高橋 昭典
(香川県香川郡直島町)

その第1回目の開催に出会う、素晴らしい幸運に心ときめいています。

■ 元気をもらった現代アート ■

私は山陽新聞社を退いてから、囲碁をしながらの喫煙を楽しみに過ごしていました。健康を考え、新しい趣味をと思っていた時、ベネッセミュージアムが直島に完成しました。島民には無料で開放されたこともあり、現代アートが何なるかも知らず訪れました。安藤建築に接し「なんだか快感が、安らぎかなあ」と感じ、現代アートに自然に入り込み、ミュージアム通いが始まりました。家内も同行し、島の中で一番のミュージアムファンになり、体重も増え元気が戻ってきました。

■ 現代アートへ恩返しを ■

現代アートに元気をもらい、何か私にできないかと考え、私の属する郷土史研

究会のメンバーが母体となり、「観光ガイド」を計画し観光協会から「直島町観光ボランティアガイドの会」が承認されました。当初は、ガイドの要領は自ら作り、勉強会をやるうとしたのですが、次々とガイドの要請があり、見切り発車となりました。最初は、おじいちゃんたちが一流の現代アートをガイドとして案内するので、ミュージアム側も驚いていました。そして、多くのマスコミからも取材を受け、お客さんにも喜んで頂いています。これが、励みとなり、ガイド要領も手づくりで完成し、魅力あるガイドたちに成長して、今では、「さま」になっていると自負しています。私たちの観光ガイドは、「年寄り元気」と訪れる人々や島民からも好評で、瀬戸内国際芸術祭を通じ、他の島にも繋がればと思います。観光ガイド、6年目を迎え、私は、2月1日で満82歳になりました。大勢の人達にガイドの仕事を勧める元気なおじいちゃんです。



李禹煥美術館
提供：安藤忠雄建築研究所